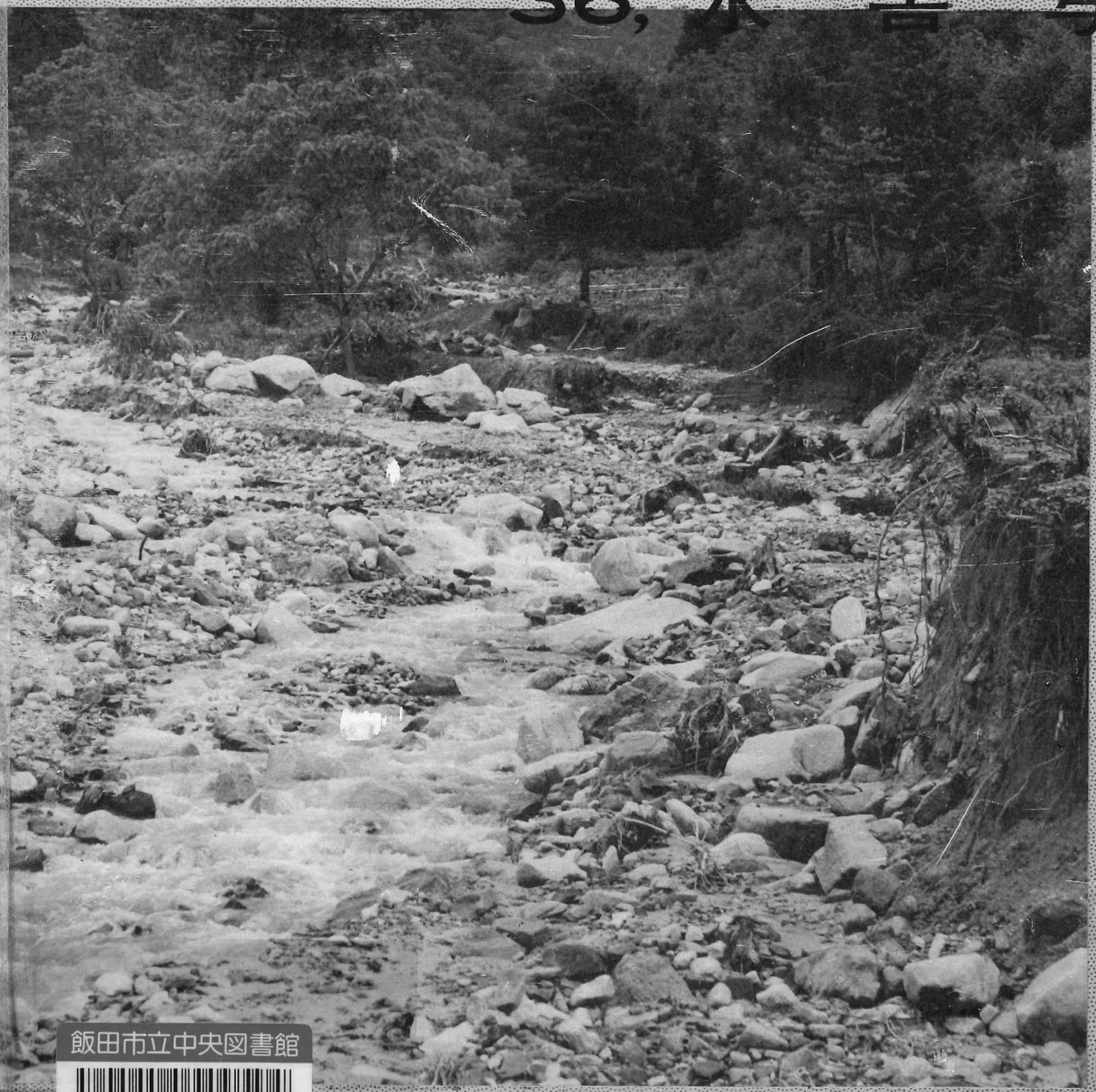
36,水害写真集



飯田市

山本公民館

飯田市立中央図書館
0113121479

発刊に寄せて

「36・6災害」から、もう7年を経ました。

今日、山腹のところどころに見るツメ跡を残すだけとなって、災害復旧工事も完成し、防災に大きな役割を果していることは、今更申しあげるまでもなく、皆さんじゅうぶんご承知のことと思います。

あの大災害は、決して天災とばかりは言い切れないものと判断し、思い切って天竜川沿岸の浸水地帯の家屋移転、堤防のかさ上げ、ならびに砂防えん堤など相当額の国・県・市費を投入し、抜本的な施策を行なったことがその後の災害発生を防ぎ、今日、関係地域の皆さん方に安住していただけたものと考えます。

災害当時を回顧するとき、今更ながら無我夢中で対策に取り組み、ただ「もう、こうした災害をなくしたい」の一念で、日夜努力してきたことが、昨日のことのように思われます。

大きな災害をうけましたが、この尊い体験は、飯田市にとって大きな教訓となり、その後の防災体制の強化に大きく貢献したことと思います。

山本地区に於ても、久米川を一級河川に編入するなど災害復旧の諸施策をすすめ、先年私の拙ない筆による災害復旧碑を建立しましたが、このたび、災害復旧記録を作成されたことは、まことに意義深いものがあり、飯田市にとって貴重な資料となることを期待し、関係各位に深甚なる敬意を表したいと思います。

飯田市長　松井卓治

写真説明　上空より山本全景

市史編纂室

３６災の追憶

支所の一隅に昭和36年６月の災害復興記念碑が自治協議会、被災者組合の皆さんのお骨折りで建立されたのが昭和40年５月で、支所の前を通る人々は当時の災害が如何に大きく恐ろしいものであったか、そして今日災害個所が関係機関や地区の方々の努力によって立派に復興出来た事を思い出しつゝ碑を眺めて通ることでしょう。

今から250余年前の正徳５年に羊満水といわれる大洪水が伊那谷をおそい当時の被害の甚大であったことを聞いて居りましたが、６月23日から降り出した雨は26日になると終日降り続き27．８日には盆を覆すどしゃ降りとなり各所に人家や多くの田畑が被害を蒙むったのであるが、人命に被害のなかったことせめてもの幸でした。

此の災害に当って当地区でも飯田市災害対策本部山本支部が確か30日に結成され、観音沢、米川等々の河川其他の個所の水害防止に消防団はじめ全地区各位が出動され、一致協力作業に努力されたことを記憶して居ります。

心胆を寒からしめた今回の災害が天災とは申せ再び襲来することのない様祈念し、併せて当時の災害の状況を永く記念する為、公民館広報委員会は当時の災害復興状況をカメラに収め、写真帳を作成いたしました。

当時を追想し記念とし、御購入御協力いたゞきましたことを厚く御礼申し上げます。

公民館長　玉置敏夫

飯田市立
中央図書館
蔵 23.12.14 書
第　号
受入

災害日誌

6月26日　６月23日から降り始めた梅雨前線豪雨はますます雨量を増し大雨注意報発令となる
11.00 小学校下小川が氾濫国道決壊されつつある報はいる。
地元消防団出動要請
12.00 ９分団幹部招集さる
13.00 全地区に水防態勢に入ることに決定し本部を設け計地区内に大水害の恐れある故警告を出すと共に水防資材の供給を各方面に依頼し資材収集に務める。
16.00 消防幹部警戒態勢をとり本部泊りと決定。支所宿直員増員となる。
17.00 支所および災害地で炊出始まる。
18.30 宮沢川、保田下石掛け崩れる。
18.50 米川、日本館橋流出。
観音沢国道水昌館橋詰る。
18.55 米川眞鳥山橋流出寸前
19.00 観音沢伊豆本横橋流出
19.10 米川竹佐沖橋流出寸前
19.25 米川眞鳥山橋流出
20.01 米川竹佐沖橋流出
21.55 [redacted]宅被害報はいる（全壊）

6月27日
2.50 [redacted]宅増水の為危険
2.53 [redacted]宅危険
3.00 水昌館下流避難命令出す
有線不通のためサイレン吹鳴
3.27 停電となり危険度を増す
3.45 三の沢温溜危険避難命令
[redacted]宅最悪の状態
3.50 消防団人身危険となり半鐘連打
3.55 消防団は本部へ引上げるが再度出動
4.10 [redacted]宅山崩れのため全壊
妻、子供生埋め
4.20 三の沢温溜沢壊報入り本部緊張す
4.25 三の沢温溜沢壊誤報とわかる
[redacted]宅山崩れのため
全壊　３名生埋め
4.30 [redacted]宅全員救助
4.52 [redacted]宅流出寸前
4.53 [redacted]全員救助
5.00 [redacted]宅全壊
[redacted]流出寸前
6.10 [redacted]宅全壊
6.50 自治協議会招集される
7.45 [redacted]宅小屋流出
[redacted]裏山崩れ危険
8.00 自治協議会災害調査、応急工事について協議をなし　調査班を作る
9.00 調査班出発以後被害状況刻々と入る

6月28日
8.00 自治協議会招集
11.00 大雨降る
13.00 洪水注意報発令

6月29日
11.00 日赤奉仕団招集炊出、支所農協水昌館（国道橋）仮設
20.00 下流危険のため取外し（国道橋）

6月30日
4.00 水昌館（国道橋）仮設作業
7.00 仮設完了
9.00 災害対策協議会設けられ飯田市水害対策本部山本支部と決る
支部長　原　茂
副支部長　竹村　央（救　護）
〃　浜島惣一（河川道路）
〃　林　育三（総務企画）
〃　玉置敏夫（資　材）
〃　田中　伝（耕　地）
〃　尾沢幸夫（動　員）
〃　市村　奨（資　材）
部落組合長会招集　農作物等水害応急技術対策開かれる
20.00 下流危険のため取外し（国道橋）

7月1日
5.00 水昌館（国道橋）仮設作業
8.00 仮設完了　山本地区災害対策、両市議、支所長に一任命令出る
8.30 消防団中学校校庭招集、災害個所派遣地区内６割動員応急工事にかかる　米川、久米川　250人
観音沢　250人
13.00 水昌館（国道橋）仮設　大橋に架替（バス通過）

7月2日　水昌館（国道橋）土取り
3.4.5日　各関係課現地調査　救援物資到着
7月6日　災害者住宅資金斡旋説明会
7月7日　土木課測量開始　衛生班消毒
7月8日　農林課測量開始　仮設橋梁調査
巡回医療班来所　陳情書提出
7月9日　対策委員会
・流木の処理・道路橋梁の応急
7月15日　飯田市議会　建設部視察　災害復旧対策懇談会（農協青年部）
7月20日　災害に伴う臨時保育所開設
日本キリスト教奉仕団の献身的な奉仕により20日から２ケ月間七久里神社社務所で開設した
11月28日　飯田市災害対策本部山本支部解散

災害状況

重傷者		1名
負傷者		7名
計		8名
家屋		
全壊	7戸	32名
半壊	29戸	131名
床上浸水	14戸	76名
床下浸水	151戸	771名
道路、河川、橋		
市道決壊		16線
橋流失		20ケ所
河川決壊		11ケ所
田畑		
水田冠水、		150町
水田埋没流失		30町
畑冠水		10町
畑埋没流失		15町
山林		
崩落	38ケ所	26H
流木	1,500石	62万
林道	5ケ所	130m

全壊者氏名
[redacted]
6名
6名
6名
4名
1名
4名
5名

食糧使用量	
罹災者	4俵
炊出	9俵
計	13俵
パン	150食

災害当時の手記

梅雨前線と名付けられる雨は６月26日より降り始め当時大雨注意報が出て27日には大雨洪水注意報に変り雨量１時間70mmに達し山本地区全般に亘り被害が出始めた、特に米川観音沢於ては高鳥屋方面の山が各所に於て崩れ岩石と流木を混ぜた濁流は或は鉄鉋水となって河筋の耕地、道路、橋又は家屋を一気に押流し其の地区内の河川と云う河川は未曽有の濁流に呑まれ、本地区内は一瞬にして悲惨な情態となり其の時急拠自治協議会を開き消防団と共に応急防水対策を講じ其の夜は夜を徹し各所に分散し防災作業に当った

翌28日更に自治協議会を開き協議を致し、各団体綱羅したる対策委員会を設け防災作業を続けつつ速刻被害調査に入り調査致したるに左記の通り被害があった。

家屋全壊７戸，半壊29戸，床上浸水14戸，床下浸水151戸，市道の決壊流失せるもの16線，橋の流失20ケ所，河川決壊11ケ所，田畑の冠水160丁歩，田畑の埋没流失45丁歩，山林崩落38丁歩流 木1,500石林道５ケ所，以上の通りの被害を蒙り、其の他重傷を含む９名を出したが死者を出さなかった事は不幸中の幸であった。

其の後幾日も降り続いたので消防団、日赤奉仕団及び被害の比較的少ない部落の応援を得て、被害を最少限度に留める様努力した。更に部落組合長を通じ其の後の被害を細部に亘り調査し、市県国へそれぞれ復興の申請を続けた決果米川観音沢，桧沢川，宮沢川，湯川，其の他小災に至るまで復興を見て復興記念碑の建立（昭和40年５月）に至った次第であります。此の碑は山本支所前国道上に燦然と空高く聳へ、それを見る度に当時の凄惨な状態を思い浮べると同時に、復興への感謝の意を捧げ其の労苦を後世に伝へる

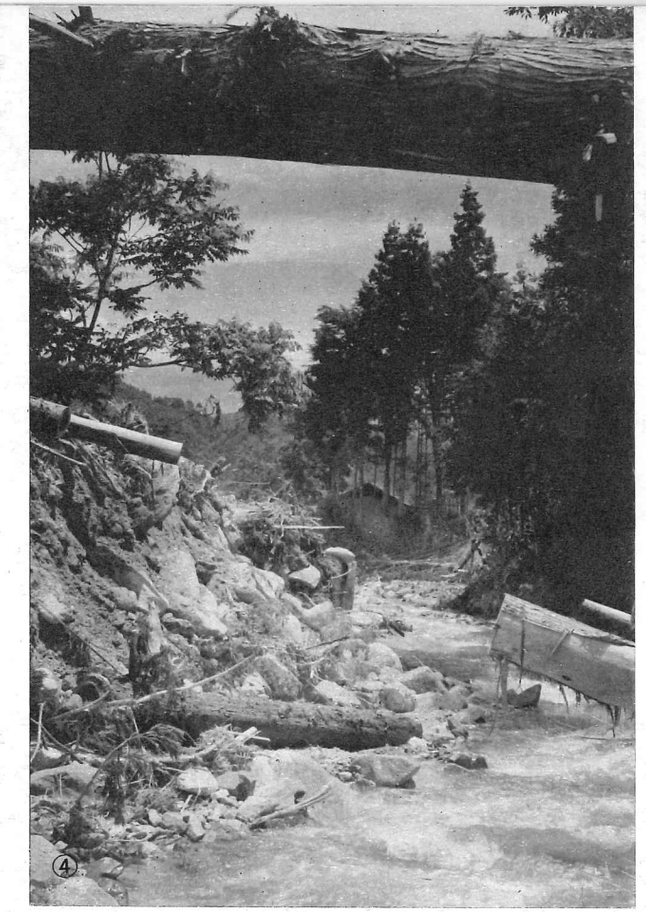
以上の通りの経過にて復興の出来たのは地区を挙げての御協力の賜であり心からの感謝の外はありません。昔今より260余年前未満水と云って山本地区一帯大水害に逢い、水が氾濫し島が出来，中の島が出来，又下の方に沖が出来た事があり其の名も今も残り地名となって居ります。

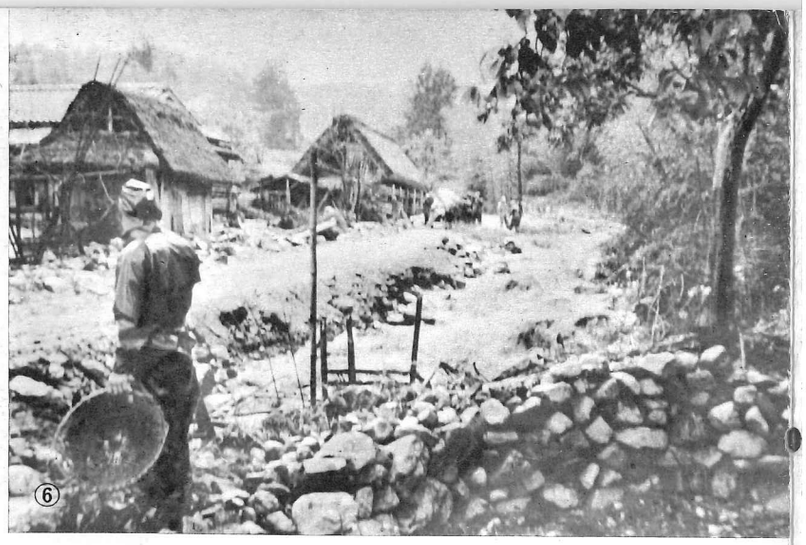
今後再びこうした災害の起らぬ事を乞い願い、当時地区の責任者として昔を忍びつたない筆をとった

元山本地区自治協議会長　原　　茂

島中橋も流失し流失寸前の北一、二上下作業所

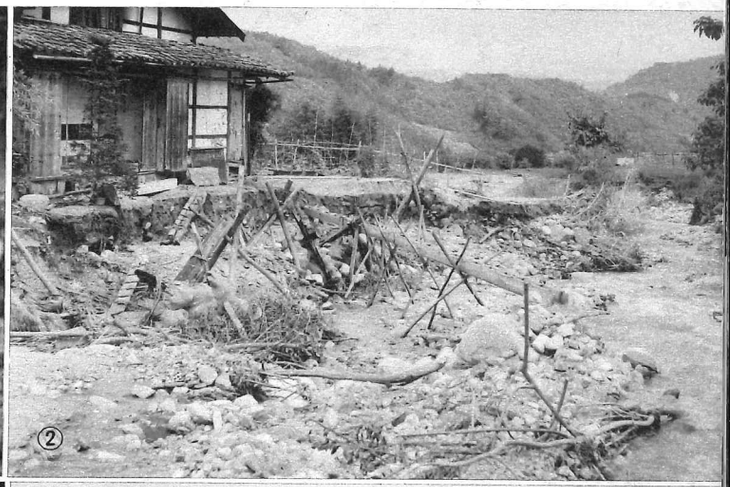
土砂に埋った米川 日本館跡より下流

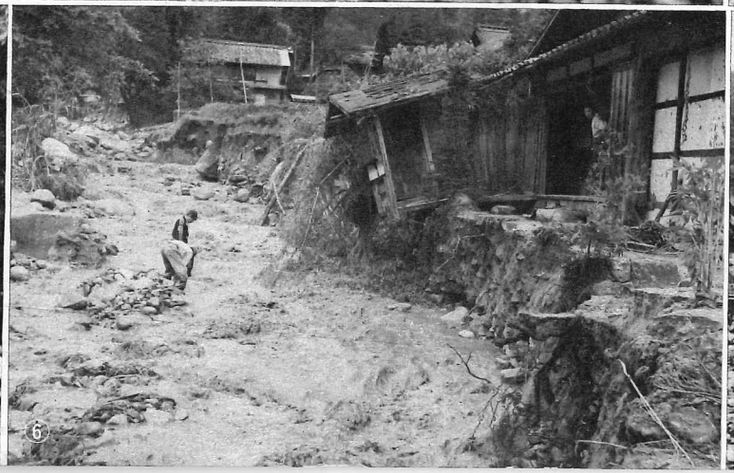


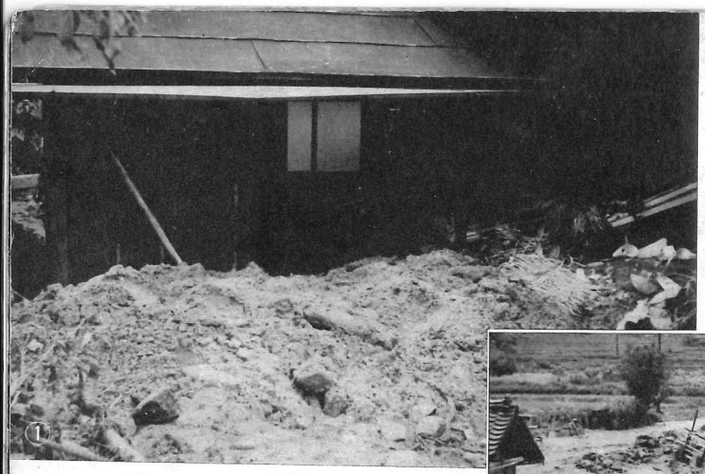


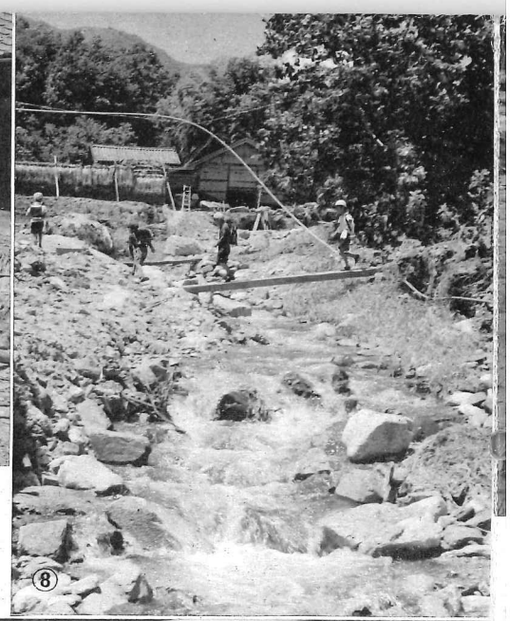
① 災害前の島中橋及び作業所
② 土砂に埋った作業所
③ 土砂で河原と化した中島方面の植付田
④ 道路が川になり横倒となった大木（中ノ島横）
⑤ 本流が変った島中橋附近
⑥ [redacted]さん附近
⑦ 仮橋がかかった崎本横
⑧ 河川が変り流石で埋った日本館跡附近

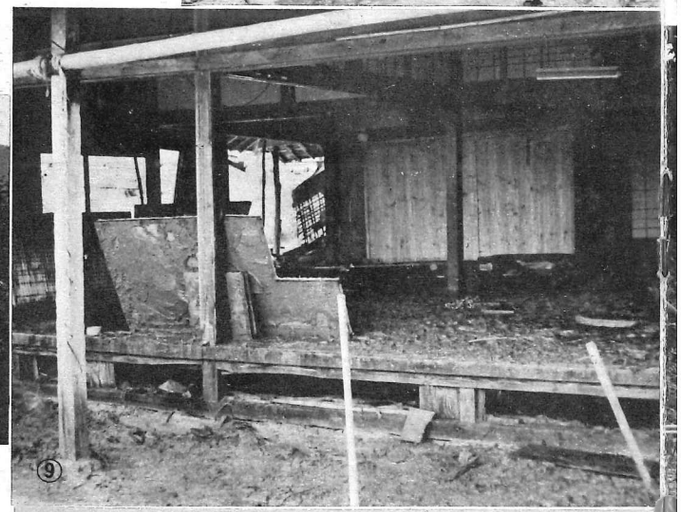
① 流失した中ノ島橋
② 濁流に洗われる成瀬氏納屋
③ 土砂流入した[redacted]氏離れ
④ 国道から見た日本館跡方面
⑤ 警戒にあたる地区民（米川）
⑥ 道路流失倒壊寸前の民家
⑦ 日本館跡にかかった井水
⑧ 畑屋附近から下流を望む
⑨ 濁流をものがたる牛枠（米川）





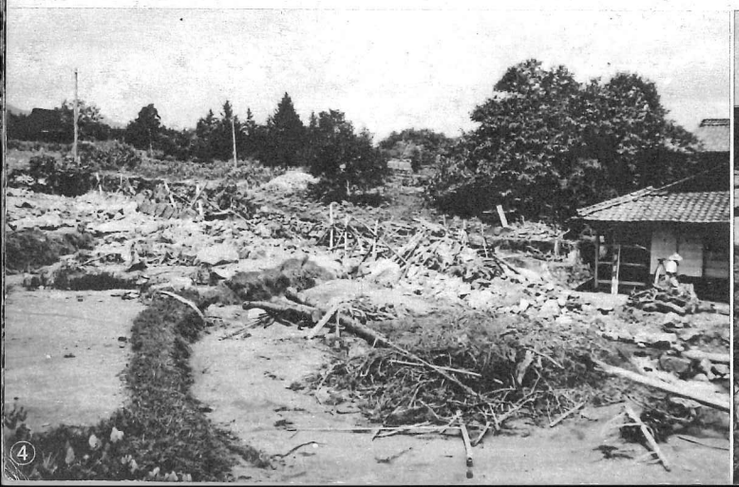


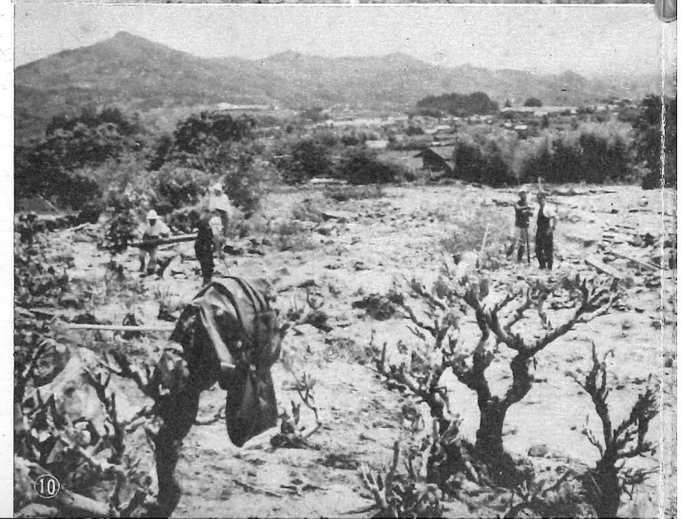




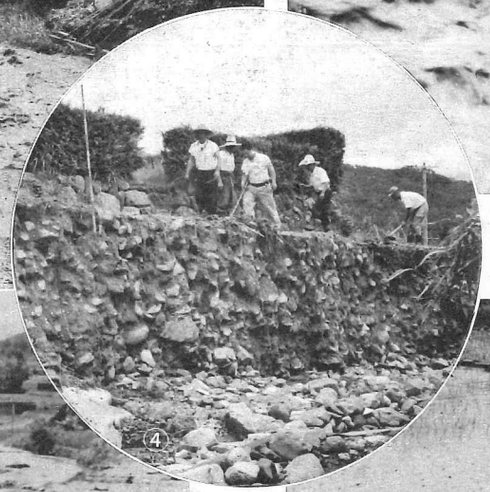
①[redacted]宅土砂流入
②断切られた国道(観音沢橋)
③赤山附近の観音沢線
④赤山附近の観音沢線
⑤仮橋が出来た国道(観音沢橋)
⑥土砂で埋没した水田(観音沢橋下)

⑦対策を練る人々(所家田横)
⑧道路流失した大石附近の上流
⑨土砂で埋った[redacted]氏宅
⑩土砂流入で埋没した水田

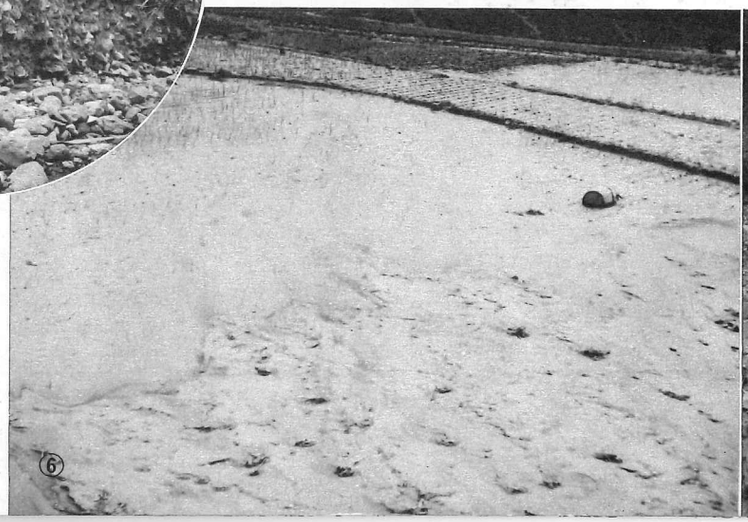




①濁流で埋没した東二下方面一等水田
②倒壊寸前の[redacted]氏蚕室
③濁流に洗われる[redacted]氏宅

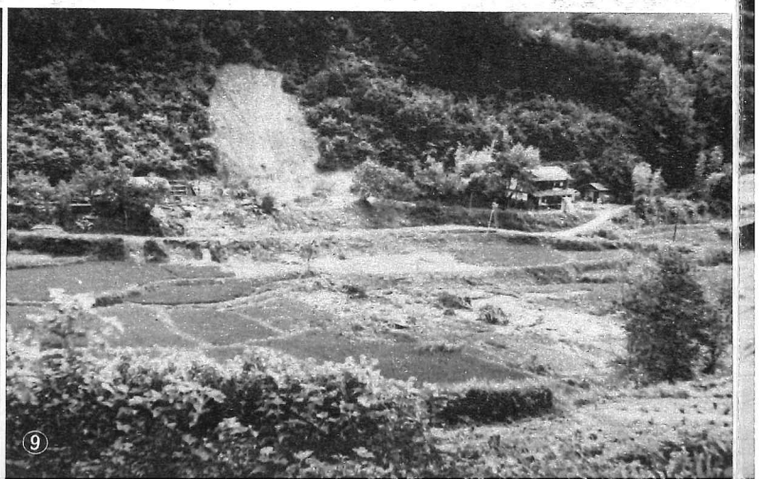


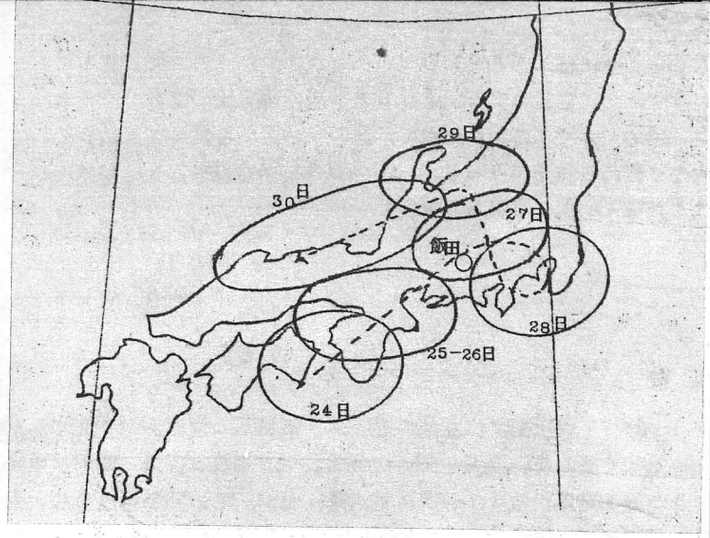
④えぐり取られた観音沢道路(石原墓地横)
⑤荒狂う観音沢(北三附近)
⑥決壊により埋没した水田(東二下)
⑦流失した[redacted]氏横永久橋
⑧埋没した茄子畑(田府高屋)
⑨流失した道路[redacted]氏附近



① 法壊と川の氾濫埋没 [redacted] 氏附近）
② [redacted] 氏横頭首工護岸
③ [redacted] 附近の山崩れ
④ 山崩れにより倒壊した [redacted] 氏宅
⑤ 光明寺納屋全壊
⑥ [redacted] 氏附近 水田決壊
⑦ 河川氾濫箱川長田 タイザ附近
⑧ 光明寺裏前方水田埋没流失
⑨ [redacted] 氏宅全壊

① 跡形ない [redacted] 氏宅
② 久米川氾濫横山附近
③ 救援物資を空輸するヘリコプター





昭和36年６月梅雨前線豪雨期間中の豪雨域の移動

①

②

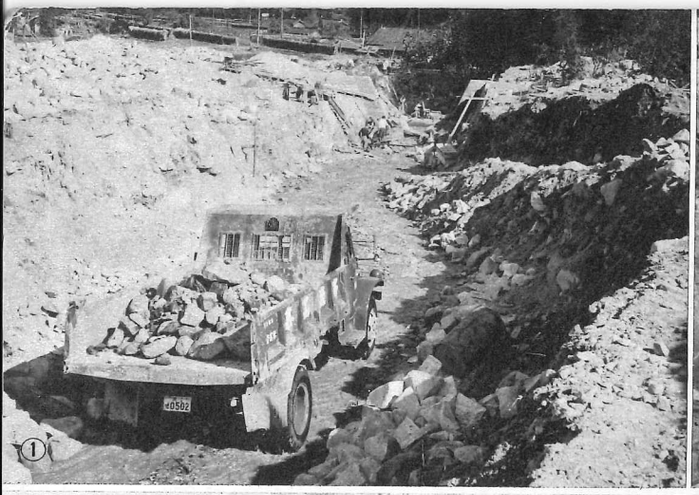
③

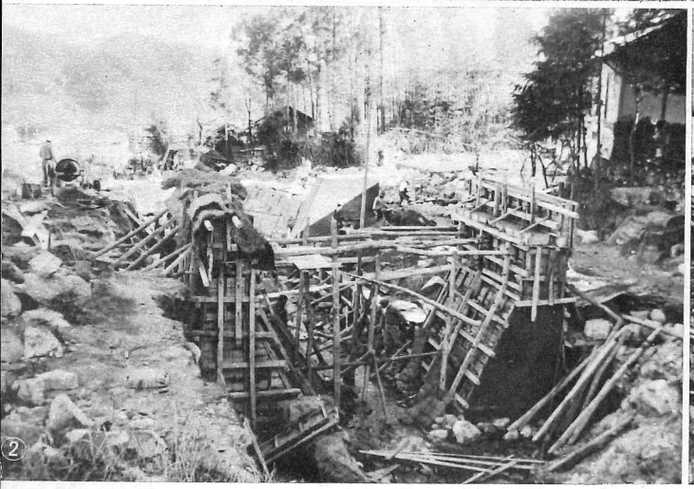
青緑深き麦秋の６月26日伊那谷を襲う梅雨前線集中豪雨恐怖の一夜を今記憶の侭に当時消防活動の一編を綴り記念に附したいと存じます。

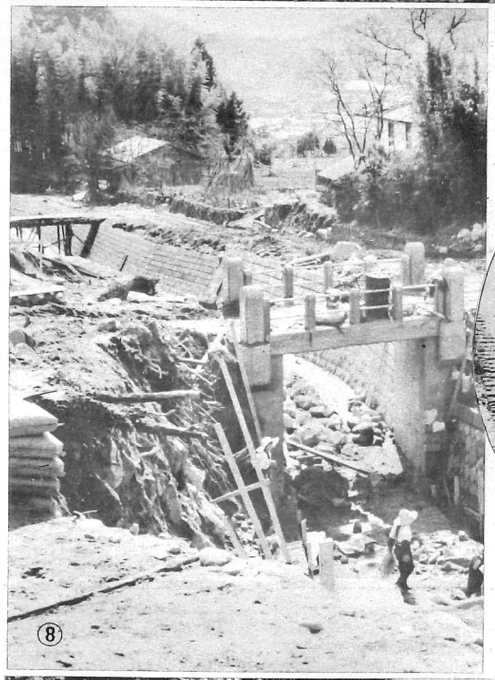
梅雨期に入り天候もぐづつき空模様が次第に悪化強烈に降り出したのが26日早朝よりであった、午前11時頃山本駐在[redacted]巡査より小学校下の川が反乱国道が決壊されつゝあるとの報に接し、小生直ちに現場に急行地元消防団員に出動を要請応急の措置を取る。雨量は時を重ねるに連れ激しく水量は一層増水する気はいあり各地に水害の危険が予想され急拠消防幹部(副分団長土屋俊夫・部長岡庭昭一・岡庭荘三・庶務班長原政春)を招集本事態における協議の結果、山本全地区に水防態勢に入る事に決定し直ちに飯田市消防本部に此の旨を通告、当全地区に有線放送を通じ大水害の恐れある故何時でも非常事態に供へ安全なる場所に避難できる様驚告し全消防団員は直ちに出動し各責任班長の指示に従い水防活動に入る様、尚且つ各班は本部との連絡が密に取れる場所に連絡所を設置本部の指示に従い万全なる警戒体制に入る様指令する、本部は支所内に設け副分団長、部長は現場の指揮に、当庶務班は本部連絡員として各々其の任に当り行動開始する。雨は１秒と休む事なく強烈に降り続く、当地には嘗て返去にない大雨に見舞はれたのだ。水防資材は用意もなく飯田消防本部に水防資材の供給を依頼するが要求資材も思う様に入手できず、至極残念であった、然し我が善愛の地を今更此の濁流に呑せる事はできない、我々消防団は粉骨砕身地区の皆様を護り続けると共に此の大災害を最少限度に喰止めるのが消防使命である事を肝に念じ、地区自治会の協力を求め水防資材の供給を依頼する、幸にして農協よりあらゆる水防に必要なる資材を供給するから危々一歩にある組合員を救って下さいとの理解ある市村組合長の善意は今尚我我胸の内に刻み込まれ永遠に忘れる事はできない。資材は早速各方面に運ばれて行く尚一般家庭よりも資材の供給を求め最善の努力を致し資材収集に務める。ここに関係各位の協力が結集され我々消防団に力付けられた。午後７時頃より観音沢、米川水域に異様な音をたて流木流石混りの濁流が今にも此の安泰の地を呑まんとしていた頃、観音沢上流に大音響が発生一瞬の間に１丈以上もあるかと想はれる高波が太木大石を伴ない[redacted]さん宅を始め下流域にある家屋田畑道路等を全壊半壊埋没流失の被害が発生、国道153号線水晶館入口の橋が流失遂いに飯田方面との交通が切断され下流水域竹佐地区にも大被害を及す、其の頃米川水域にも同様なる悲惨な状態が発生し川線等が想いもよらぬ方向に流れを変へ水嵩は天竜川の荒波以上の大豪水となった。箱川竹佐久米山崩により家屋の全壊半壊等相次ぎ特に[redacted]氏宅は想像につかない大惨事であった。此の様なる被害が次々と本部に報告される此の方面の水域一帯の民家に対して安全なる場所に緊急避難の措置を取り一応危険区域の皆様を救助した。深夜に入るや電灯は消え有線連絡の跡絶る地区が次々と起り全くの真の闇となる益々危険が伴ふ故老人婦女子子供の外出禁止を呼懸た、雨戸越に聞える異様な豪音は濁流に巻込む太木大石である。此の恐怖の中に我が身をも顧みず必死の作業警戒に当り地区の安泰を計る為努力する団員諸君の犠牲的精神を今尚誰れ一人として忘れざる事が出来ないだろう。こうして警戒徹夜の作業を続ける内に一夜が明ける、だが１秒の油断も許す事ができない状態であり雨量は減る事なく降り続くのだった。引続き団員には警戒に当る様指示する、夜明けと共に被災地へ駈附ける人々は一夜に荒果てた悲惨な状態にただ茫然と荒狂う濁流を眺め溜息を吐くのだった。

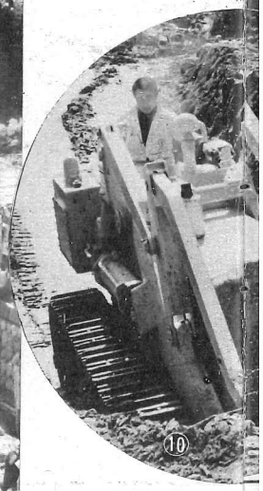
限りなく此の様な災害を受けた皆様方には私の至らぬ指揮の不手際を深くお詫び致します幸にして当地区より一人の犠牲者が出なかった事は不幸中の幸と存じます。尚一般地区の皆様日赤奉仕団の懸命なる焚出作業、各々蔭の力となって我々消防団に御協力下された其の労に私責任者として深く御礼申し上げます

元山本消防分団長　遠山光男

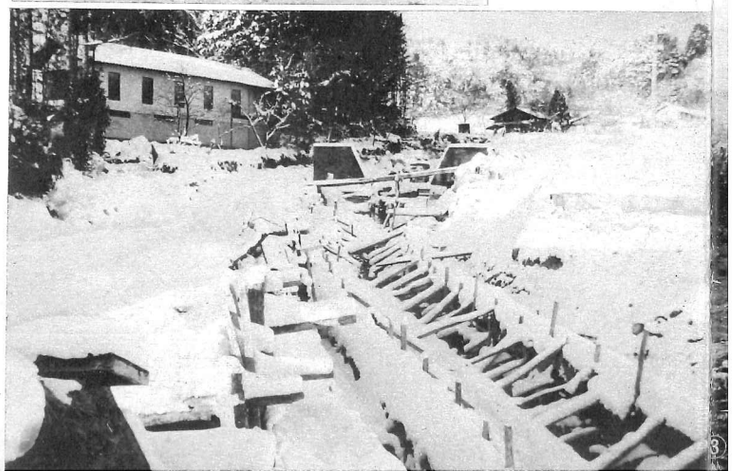


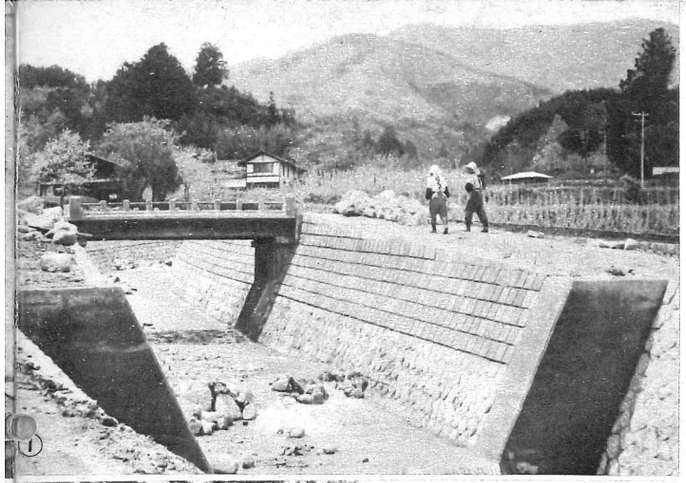


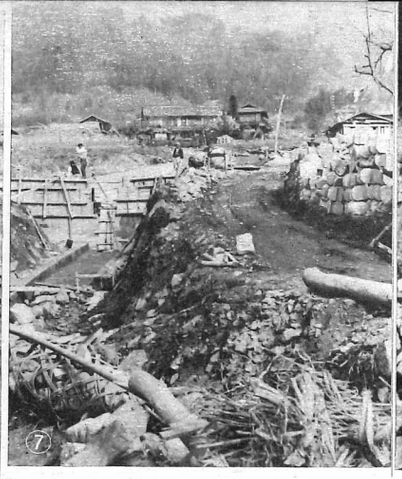




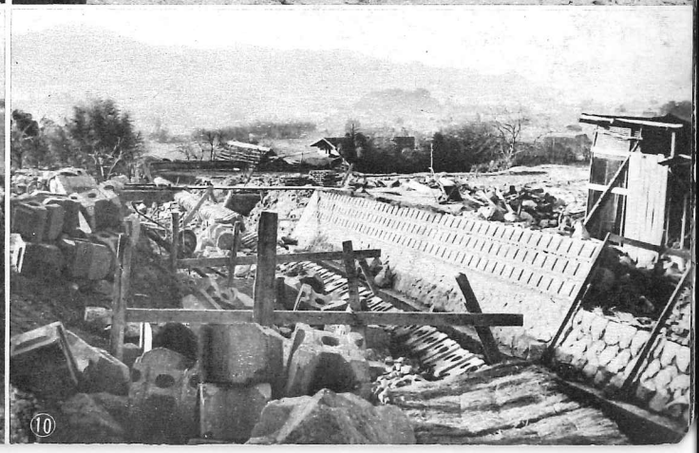
① 日本館跡附近
② 中之島横
③ 崎本横
④ [redacted]氏横
⑤ 工事進む島中橋附近
⑥ 工事進む島中橋附近
⑦ 応援による植直し田
⑧ 島中橋附近の護岸工事
⑨ 雪中の復旧工事
⑩ 活躍するブルトーザー



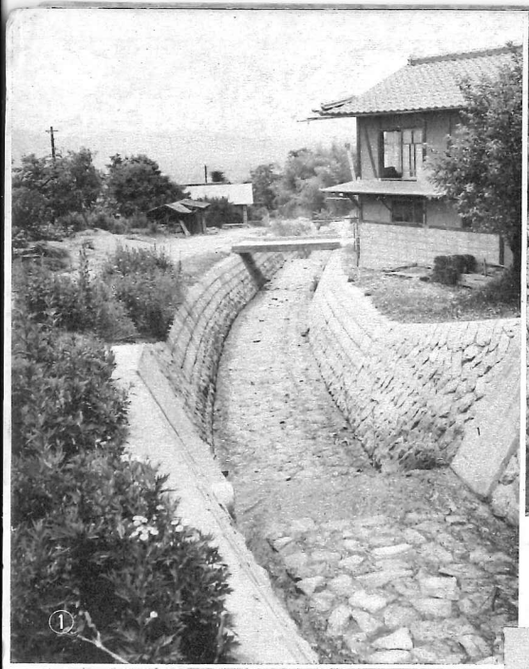




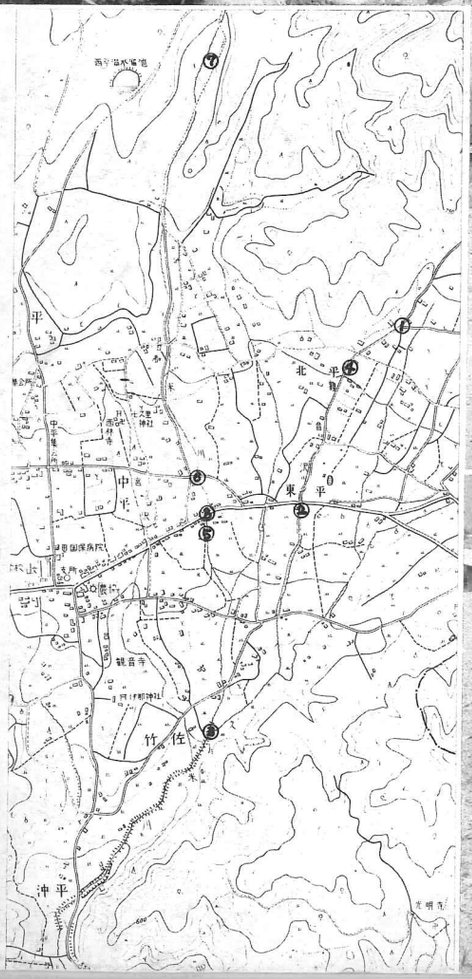
① 完成近い中之島横
② 水田より出された土砂
③ 工事進む　所家田横
④ [redacted]氏横
⑤ [redacted]氏横
⑥ [redacted]氏横
⑦ 国道観音沢橋附近
⑧ 所家田附近
⑨ 救援苗
⑩ 北三集会所横

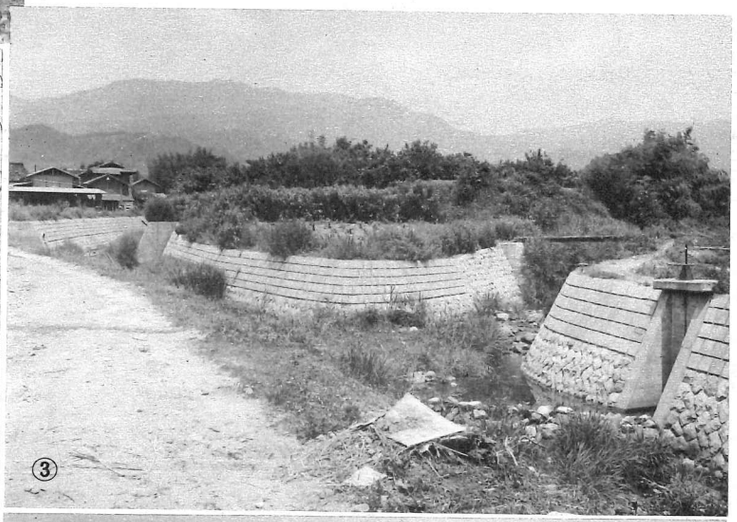


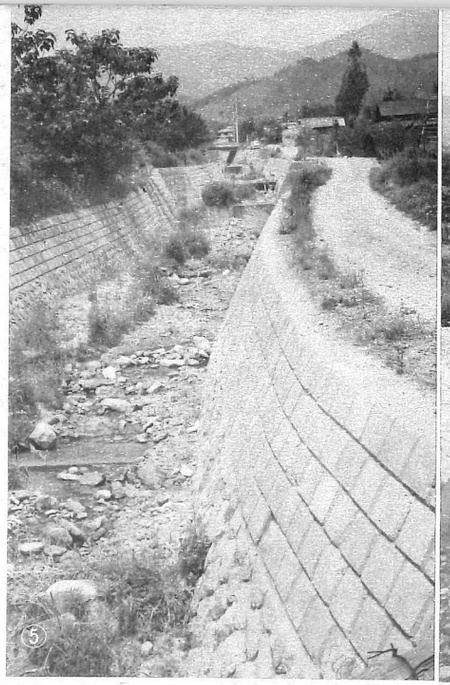
復旧作業と観音沢

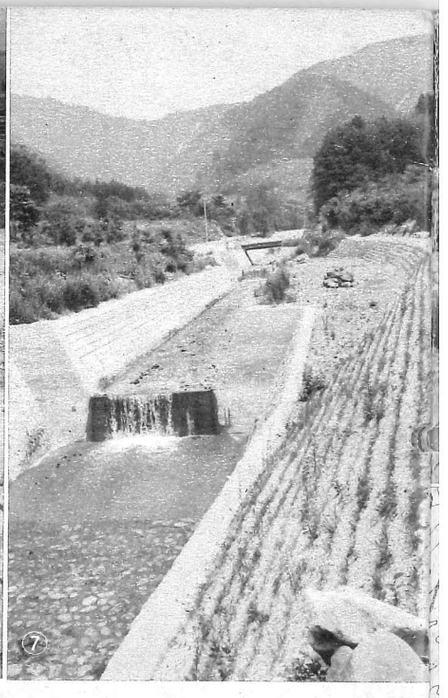


復旧河川と道路

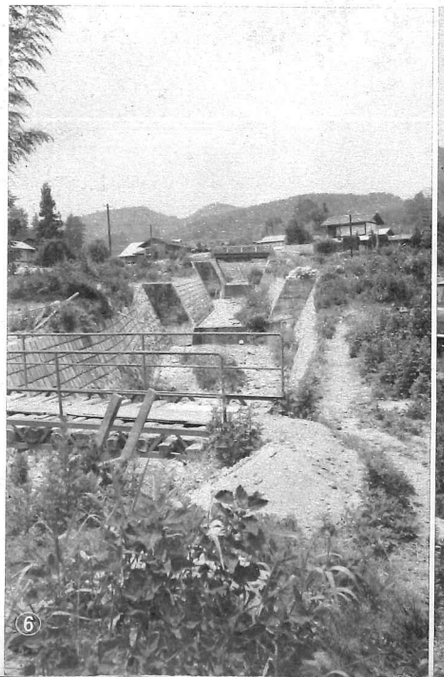


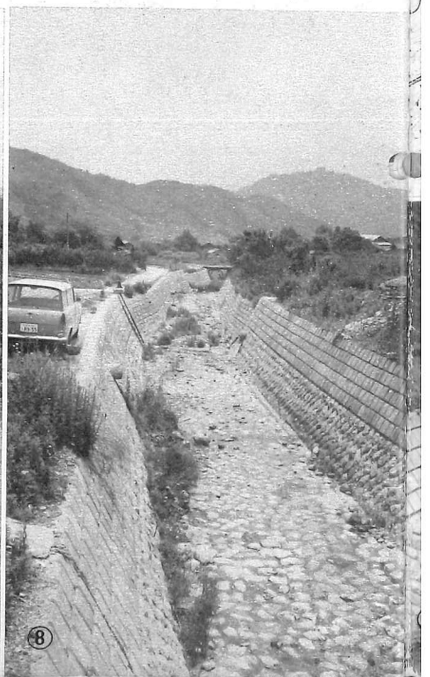


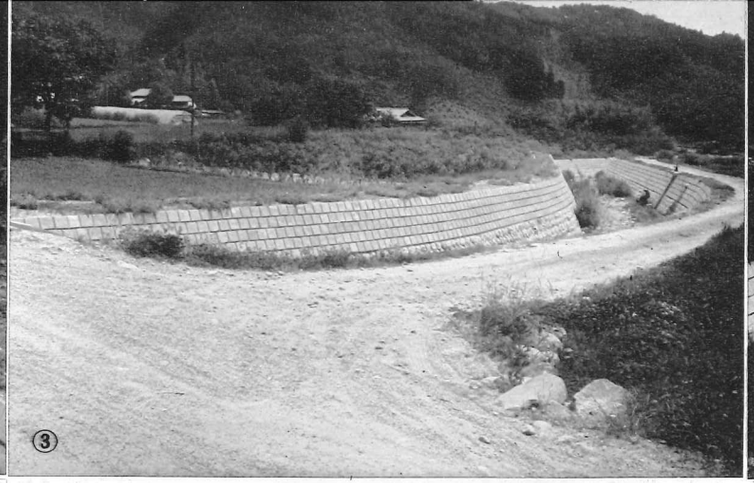


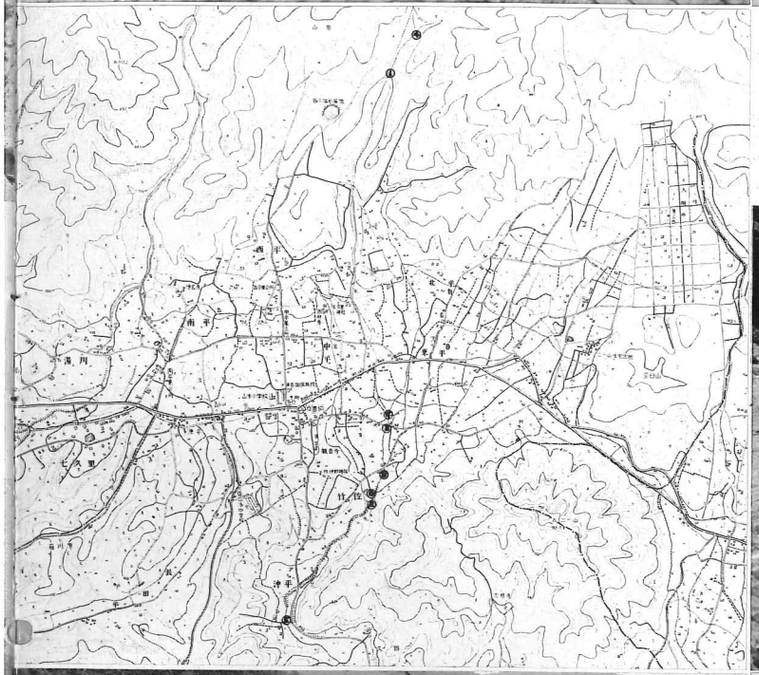


①[redacted]氏横
②[redacted]氏横
③米川観音沢合流点
④北三集会所横
⑤畑屋下流
⑥日本館跡附近
⑦神の木平附近
⑧米川橋より下流

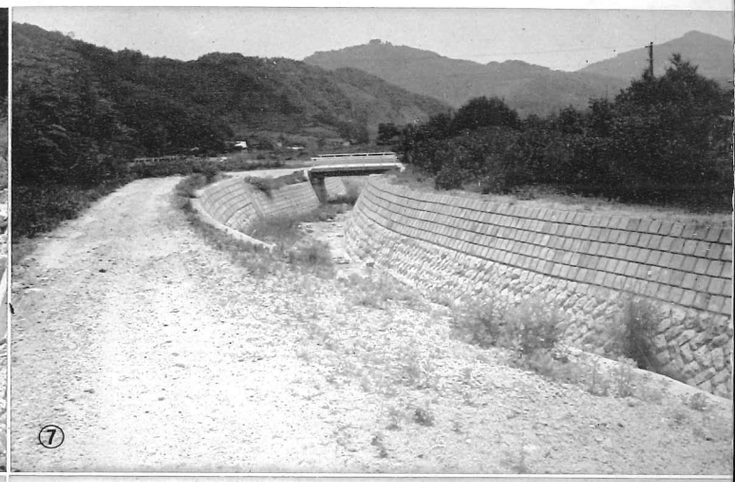








① 米川上流
② 二本橋より下流
③ 高屋橋より下流
④ [redacted]氏下北ノ沢合流点
⑤ 横山橋より上流
⑥ [redacted]氏附近
⑦ 高屋橋上流
⑧ [redacted]氏横

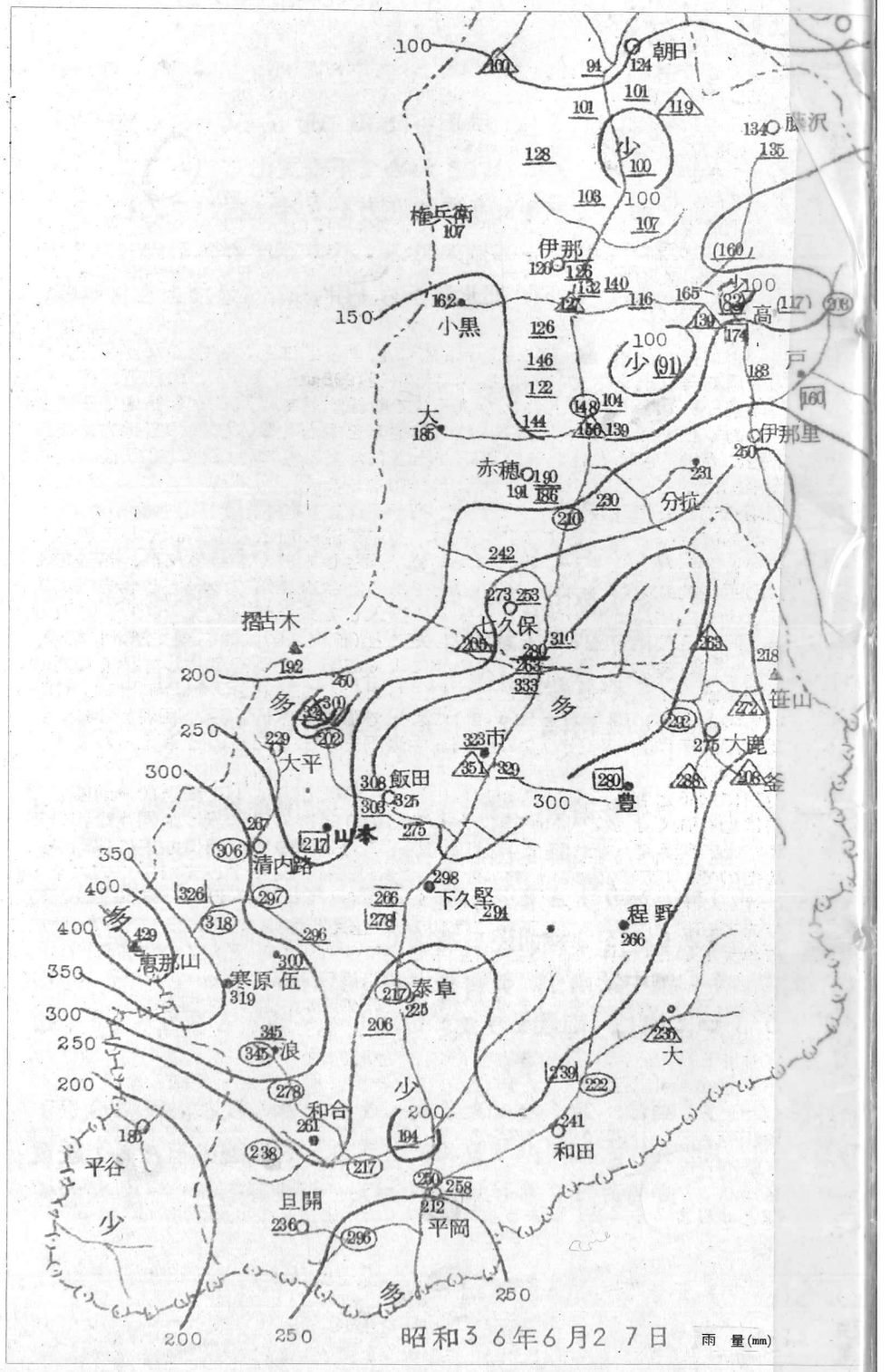


昭和三十六年六月二十六日梅雨前線集中豪雨による山本地区一帯に亘る大災害の復旧記念として之を建つ

昭和四十年五月吉日

山本自治協議会

山本被災者組合



３６．６災害時の気象

６月２５日

気圧の谷の中に入った梅雨前線は北上して本州南岸沿いを東西にのび、その一部は内陸に入り込んできた。尚熱帯低気圧の影響もあって更に活発になった。このため西日本には豪雨が降り続き被害を出した。そして「集中豪雨は東へ移動」し東日本の各地へ大雨を降らせる様になった。

６月２６日

26日３時には弱い熱帯低気圧（998mb）が発生し、四国南海上を北上して来たので梅雨前線は押上げられて本州中部に横たわり21時には台風６号（998mb）となり、台風の刺激をうけて一層活発となった。南の湿った空気はますます増し雨は一段と強くなって各地で大雨、洪水警報が出された。当地方は時々強く降り、大雨は必至の気配となり夕方大雨注意報が出された。

６月２７日

伊那谷は梅雨前線の直下におかれ前線は留まってほとんど動かなかった。一方台風６号は弱まって15時には熱帯低気圧（998mb）となりこの接近に伴ない梅雨前線の活動を一段と強めた。そして前線附近では不安定な気増で豪雨発生のある状態であった。このため中部地方を中心として隣接の各地方まで広範囲に大雨、洪水などの注意警報が出された。とくに伊那谷は昼前後頃から集中的豪雨で、天竜川水系は大被害が発生した。

豪雨を起した気象要因

一般的に豪雨をもたらす必要条件は、多湿気流の流入である。そして流入した多湿空気が保有する水蒸気の大部分を雨として放出する為には、気流の上昇乃至収斂或いは不安定化等が必要である。今次豪雨についてこれを考察すると、その根源は南方海域から強勢に浸入して来た暖湿気流であり、これが気圧配置その他要因によって収斂したこと（イ）（強雨域は巾狭く南北にのびることになる）そして更に別の要因によって気流が不安定化して極く短時間に保有水蒸気の大部分を雨として放出したこと（ロ）（強雨域は南北にも巾狭いものとなる）即ち以上（イ）（ロ）によって強雨域は極く狭い区域となり、反面降雨強度は非常に強くなり所謂集中豪雨を現出したものと考えられます。

降雨状況

27日になると朝から強い雨が降り出し、７時頃からは１時間量10mm前後で雨勢は増々強くなって、26日９時から27日の９時迄の日雨量は大雨注意報の基準70mmを越える雨となった。（飯田、以下同じ）強雨域は次第に北東に移動を始めたので、10時30分大雨、洪水注意報が発表された。しかしまだ多くの人たちは注意報を注意報として受けとれなかったらしい。正午頃までは同じ様な降り方で26日０時より27日正午には100mmを越える大雨となった。まさか程度に考えていた「集中豪雨東に移動」もついに伊那谷に来襲して雨は更に激しくなった。猛烈な勢いで降り出した雨は13時には1時間量36mm13時10分には同じく40mmというすさまじい降り方で今回豪雨の１時間量最大値となった。多くは１時間量20mm～30mm前後の強雨で、全く手のつけられない様な状態が続いてまさしく「集中豪雨」、被害甚大の心配が濃くなって来た。そして15時には早くも200mmに達し雨量はうなぎのぼりで、静まる所を全く知らなかった。刻々と止むことなく降り続く雨は、強くなったり弱くなったりの波状的雨勢が繰返され、17時20分伊那谷に大雨、洪水警報が出され大被害に備えて厳重な警戒が必要となって来た。18時には250mmに及び大被害発生の気象状態となった。19時頃までで一応第１波の峠を越し（280mm）20時～21時は小降り状態となりようやく「豪雨去る」の感を与えた。しかし24時までには340mmにも達した。

（宮沢利仁書）

編集後記

昭和36年６月23日より降りはじめた雨は１週間、だれも予想しなかった大きな被害をもたらしました。

なかでも27日飯田下伊那地方を中心に襲った集中的な降雨は、南方からの熱帯性低気圧（台風６号）の影響が大きく加わって梅雨前線は刺戟され著しく活発となりました。伊那谷は一面に、ものすごい積乱雲に覆われ雷音を促って１時間40mm10分で12mmという様な豪雨になりました。名づけて「36.6梅雨前線集中豪雨」山崩れ、河川の氾濫、橋の流失、道路の決壊、家屋の崩壊など激甚さは自然の猛威とは云え悲惨な出来事でした。こゝに私たちは当時の災害がどんなに大きく、悲しいものであったかを何時までも思い起してもらうと同時に、再びこうした惨事を起さない為にも記録にとゞめたかったのです。

末びながら編集にあたり、貴重な写真を心よく提供下さった[redacted]氏[redacted]氏をはじめ、農協支所など各方より御協力を頂きました事に対し厚く御礼申し上げます。

この写真集が市民の皆さんに記録写真としてお役に立てば２年余り編集にたづさわった、竹村隆彦公民館主事、広報委員の皆さんと共に災害後７年労をいやしながら喜びたいと思います。

（竹村 倫記）

編集委員　竹村 倫　熊谷千臣　宮沢利仁　中島英雄　唐沢孝之

３６．６　災　害　写　真　集

昭和43年12月３日印刷

昭和43年12月３日発行

発　行　飯田市山本公民館

編　集　飯田市山本公民館広報委員会

発行責任者　玉置敏夫

印　刷　平井眞美館

飯田市立中央図書館蔵書

大畑井取入れ口（五輪）